

各位
お知らせ



平成 31 年 2 月 1 日

3 月下旬オープン予定の「大須シネマ」がショートフィルムブランド「ShortShorts」とタイアップし、夕方を短編映画専門の時間帯として継続的に上映することを決定

特定非営利活動法人大須シネマ（本社：名古屋市中区、理事長：中川健次郎）は、2019 年 3 月下旬の営業開始以降、夕方の一定時間帯を短編映画専門の時間帯として設定し、世界のショートフィルム（短編映画）を継続的に上映することになった。上映は 3~5 作品をセットにして 18 時から 19 時の 1 時間程度、料金は概ね 1,000 円で行う予定。

ついでには、ショートフィルムブランド「ShortShorts」を展開し、ショートフィルムに特化した製作・配給を行う株式会社ビジュアルボイス（本社：東京都渋谷区、代表取締役：別所哲也氏）と配給に関する契約を締結する。

全国有数の賑わいを誇る商店街である大須の立地と気軽に楽しめるショートフィルム（概ね 10 分~15 分）の特性を生かした上映プログラムを組むことで、仕事帰りに大須に立ち寄ったワーカー、飲食・ショッピング目的で大須を回遊する方々を集客し、普段あまり映画館に足を運ばない層にも訴求できるシアターづくりを目指す。

「ShortShorts」は現在オンラインシアター (<https://sst-online.jp/>) のほか、イベント会場を中心にコンテンツを提供しており、映像の力で「顧客の心を動かす」マーケティングとしてもその活用は注目されている。

<参考>

・映画館「大須シネマ」の概要

- (1) 映画館所在地 名古屋市中区大須 3 丁目 27 番 12 号
- (2) 席数 42 席
- (3) オープン予定日 平成 31 年 3 月下旬
- (4) アクセス 地下鉄名城線上前津駅徒歩 6 分

・配給会社の概要

- (1) 商号 株式会社ビジュアルボイス
- (2) 事業内容 映像製作・配給
- (3) 本店所在地 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4 丁目 12 番 8 号
- (4) 代表取締役 別所哲也

・ShortShorts の概要等 （別紙参照）

<お問い合わせ先>

名称：特定非営利活動法人大須シネマ
住所：名古屋市中区大須 3 丁目 15 番 13 号
TEL：052-265-5550
E-mail：info@osucinema.com

(別紙)

SHORTSHORTS

■ShortShorts とは?

株式会社ビジュアルボイスが展開するショートフィルム（短編映画）の総合ブランド。1999年より開催している米国アカデミー賞公認・アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」(SSFF & ASIA)を中心に、各種上映イベント、作品配給、作品製作、企業や行政などとのコラボレーションプロジェクトを展開。

5G 時代の到来により大容量のデータ通信が可能になることで、スマートフォンなどの携帯デバイスでも高画質な映像コンテンツ・映画作品をより快適に楽しむことが可能に。その一方で、映画館での鑑賞にとどまらないリアルな場所での映画体験もますます重要視されている。ShortShorts は、若きクリエイターをさまざまな活動から支援するとともに、ショートフィルムの活用場所を広げている。

<https://v-voice.jp/>

SHORTSHORTS

FILM FESTIVAL & ASIA

■ショートショート フィルムフェスティバル & アジア とは?

米国アカデミー賞公認、日本発アジア最大級の国際短編映画祭
~才気溢れる映像作家の魅力を日本から世界へ発信する映画祭~

米国アカデミー賞公認・アジア最大級の国際短編映画祭。代表は俳優の別所哲也。1999年に東京・原宿で誕生し、これまでに延べ40万人を動員。オフィシャルコンペティション（ジャパン部門、アジア インターナショナル部門、インターナショナル部門）をはじめ、「環境」「観光」「CG アニメーション」など、様々なカテゴリーの部門・プログラムで構成されている。また、2018年に映画祭が20周年を迎えたことを記念し、グランプリ作品は、ジョージ・ルーカス監督の名を冠した「ジョージ・ルーカス アワード」となった。2019年度の開催よりグランプリ作品（オフィシャルコンペティション3部門の各優秀賞から1作品が選出される）含む、オフィシャルコンペティションの各優秀賞は次年度のアカデミー賞短編作品のノミネート候補作品になる。世界に羽ばたく若きクリエイターを応援する映画祭。

www.shortshorts.org

■ショートフィルムとは?

各映画祭により、長さの規定は異なりますが、おおむね10~15分程度のスキマ時間にフィットするコンテンツ。

SSFF & ASIA の場合は25分以下の映画作品。短いと1分のもものも。

「映画のエスプレッソ」「映像の未来地図」「映像作家のデッサン画」と評されるように、短い時間の中に、長編映画にも勝るとも劣らない感動が凝縮され、その燃費の良さ・魅力はまさに現代人の生活に寄り添うコンテンツとなっている。

以上